

京都〈ゆづゆづの里〉 入居者インタビュー

里の魅力に引き寄せられて

早く住みたくなった！

服部 裕嗣様 (74歳)



今回は、昨年3月にご入居された服部裕嗣様をご紹介します。

「本当は、こんなに早く入居するつもりじゃなかったんですよ。計画では、入居は2年先の予定でしたが、僕ひとりでもいいから、早く来たくなつたんですよ(笑)」

と、おっしゃる服部様は、当初ご夫婦二人での入居を検討されていました。検討を始めたきっかけを伺うと、「五十代の頃に妻の母親が『娘の世話になりたくない』と老人ホームに入居しましてね。その時、初めて老人ホームという選択肢を知つたんですよ。説明を聞いて実に合理的だと思いましたね。子供がいないので、やはり将来は何処かに入つたほうが良いと思い、定年後すぐに入居検討を始めて、20、30件は見学しましたね。」

ここを見て、マンションと戸建ての中間の様な建物に一目で惹かれてしまいました。でも妻は、まだ若いから入居は先だと云って乗り気じゃなかったんですが、お気に入りのテラスの空室が無くなつてきたので、慌て出したんですよ。」

独り立ちしたくて

「偶然、希望していた南向きの部屋が空いたので、今しかないと思つて妻を置いて一人で入居することを決めたんですよ。」

妻は自宅にあるピアノや絵画に思い入れがあり、どうしてもす



里の囲碁サークル (右が服部様)

ぐに決心出来なかった様です。

僕は耳が遠く、人とのコミュニケーションが苦手。普段は妻が通訳代わりの役目をしてくれているので、僕一人では何も出来ないと思われている。でもここなら、食堂があるし、食えることには困らない。職員さんの見守りもある。自然を取り入れた環境の中で、自分のやりたかった事が出来る。自分一人でも自立した生活が出来るところを妻にも見せたいと、一人で住んでみることにしたんですよ。」

やりたいことがいっぱい

「ここに来たらやりたかったことの二つが囲碁です。サークルだけではなく、宇治市内の囲碁クラブにも週1回通つて腕を磨いています。」

二つ目は登山ですね。昔から、月一回は仲間と登山を楽しんでいますが、里周辺の山で道を探しながら一人で散策するのも楽しみの一つです。」と、目を輝かせて楽しそうに話されます。「最近、一坪農園で野菜も作りだしたんです。お昼だけ、野菜サラダを作つて自炊してるんですよ。今では、妻に感心

されています。(笑)」

春からは、二人で

その後、奥様はどうされているのか伺うと、「一日二回は、電話で近況報告をしています。妻は週に1回は里に来て、夏祭りや文化祭を見たりして楽しんでいきます。」

「一人でも活き活きと里で暮らしている主人を見て、若い内に里の生活に慣れて趣味に没頭出来たら



登山仲間(後列、左から二人目が服部様)

いいかなと、私もこの春からお世話になることに決めました。限りある時間、残りの人生を豊かに暮らしたいと思います。」(奥様談) いつまでもお元気で、里での生活を満喫していただきたくと願っております。